

大学生の Cyber Aggression と心理的不適応の関連の検討 (1)

—大学生用 Cyber Aggression Scale の作成—

○濱口佳和 (筑波大学)

金子 楓 (筑波大学)

キーワード: Cyber Aggression, 尺度構成, 大学生

問題と目的

Cyber Aggression は「SNS, e-mail, チャット・プログラム等, 広範囲のインターネット・コミュニケーション技術 (ICT) を通じて行われる攻撃行動 (Pornari & Wood, 2010)」と定義される。本研究では, 大学生用の自記式尺度として Cyber Aggression Scale (CAS) を作成し, その信頼性・妥当性を検討する。尺度作成においては, 従来取り上げられてきた Cyber Aggression の内容に加え, 虚偽や誇張を含む問題のある自己呈示の項目を加え, より広い Cyber Aggression を測定できるよう留意した。

方 法

調査時期

2018 年 6 月。

調査対象者

茨城県南部の国立大学生 205 名 (文化・人間系 30 (男 11 女 19), 理科系 93 (男 75, 女 18), 体育系 52 (男 31, 女 21), 芸術系・他 30 (男 7 女 23))。

調査内容

Cyber Aggression Scale (CAS): オリジナルに作成した尺度。海外で開発された既存の Cyber Aggression の尺度 (Lee, et al., 2015; Runions, et al., 2017; Shapka, & Maghsoudi, 2017) を参考に SNS や e メール上での攻撃的コミュニケーションと, 虚勢的自己呈示 (國吉, 2017) ならびに, 自己高揚的な自己呈示 (谷口・清水, 2017) から構成される尺度。29 項目 6 件法で回答を求めた。内容は怒りの発信 (4), 他者に対する否定的な発信 (5), 自己高揚的自己呈示 (3)・虚勢的己呈示 (3),

特定の人・集団へのからかい・差別 (2), 性的な嫌がらせ (3), 逸脱した使用法 (9)。全 29 項目。

大学生用能動的・反応的攻撃性尺度 (SPRAS-U)

濱口 (2017) の 56 項目から 45 項目を使用。反応的攻撃性 (易怒性 5, 怒り持続 5, 怒り強度 4, 外責的認知 3, 報復意図 6), 能動的攻撃性 (攻撃有能感 5, 他者支配欲求 5, 欲求固執 5, 攻撃肯定評価 7)。**多次元性関係性攻撃尺度 (大学生用)** 濱口他, (2012) の「関係拒否」, 「陰口」, 「操作」から 8 項目を抜粋。**敵意攻撃インベントリー** 秦 (1990) の言語的攻撃尺度を使用。

結果と考察

Cyber Aggression Scale の構成: 分布の極端な 19 項目を削除し, 因子分析 (主因子法・プロマックス回転) を繰り返し, スクリー基準により 2 因子を抽出した (3.24, 1.49, 1.00, 0.61...)。第 1 因子は, 他者に対する怒りや不満を発信する「怒りの発信」と命名された。第 2 因子は, 自分を良く見せるための発信をする「自己顕示」と命名された。因子間相関は.41。信頼性は怒りの発信 (5 項目) で $\alpha = .78$, 自己顕示 (3 項目) で $\alpha = .71$ 。怒りの発信で女 < 男となった ($t(198.22) = 3.16, p < .01$)。

Cyber Aggression Scale の併存的妥当性: 怒りの発信は, 易怒性, 報復意図等の反応的攻撃性と言語的攻撃と .30 以上に有意相関がみられた。自己顕示は他者支配欲求, 欲求固執, 関係性攻撃と有意な相関がみられ, 妥当性が確認された。

Table 1 CAS と反応的・能動的攻撃尺度, 言語的攻撃尺度, 関係性攻撃尺度との相関係数

	易怒性	怒り持続	怒り強度	報復意図	他者支配欲求	攻撃有能感	欲求固執	外責的認知	言語的攻撃	関係性攻撃
怒りの発信	.38**	.23**	.24**	.38**	.25**	.05	.29**	.21**	.32**	.26**
自己顕示	.12	.08	.13	.11	.16*	.09	.20**	.16*	.00	.15*

※* $p < .05$, ** $p < .01$